



ふかしんメッセージ³⁹ — 校長から香住のみなさんへ —

令和6年2月19日（月）

「真のリーダーとは？」

先週土曜日17日午前9時22分、日本の次世代主力ロケット「H3」の2号機が種子島宇宙センターで打ち上げられました。昨年3月に打ち上げられた「H3」初号機は、第2段エンジンに着火できずに打ち上げに失敗していましたが、この2号機は第2段エンジンにも着火し、搭載する衛星3基のうち超小型衛星1基を分離し、軌道に突入したことで飛行実証の目的が達成され、成功を収めました。

この「H3」2号機の打ち上げを成功させた宇宙航空研究開発機構（JAXA）の開発責任者である岡田匡史プロジェクトマネージャーは「打ち上げ成功が確定した時には、監視室で『よっしゃ！』と叫びながら泣いていた。」とインタビューに答えています。また、初号機の打ち上げ失敗の原因究明と対策がなかなか思うように進まない時期もあり、「本当にしんどかったが、頑張って取り組む仲間の姿に突き動かされ、何とかやり抜いた。」と語っています。

岡田匡史プロジェクトマネージャーのこれらの言葉からも、2度目の失敗は決して許されないという中で、JAXAの数百人というスタッフを率いるリーダーとしての責任とプレッシャーは、本人だけにしかわからない計り知れないものがあつたことがわかります。

多くの高校で、色々な場面で「リーダーとして・・・」とか、「リーダーとなるために・・・」といったことがよく語られます。それでは、「リーダー」に求められる資質とは何なのでしょう？ どんな人が「真のリーダー」と言えるのでしょうか？

「道徳」とは、「道」と「徳」からなっています。「道」が、「親孝行をなさい」とか、「弱い者は助けなさい」、「順番を守りなさい」など、人が守るべきルールを指しているのに対し、「徳」は、そうしたルールを守ることができる状態、どちらかというと、「こうありたい」とか、「こうなりたい」といった人間のあるべき姿を示していると言われます。能登半島地震のような災害時にあっても私たち日本人の整然とした秩序ある態度やふるまいは世界中の人々から賞賛されています。また、街中がき

れいなこと、バスや電車、食事をする店の前で整列して待つことなど、こうした日本人のふるまいは世界中の人々から驚きをもって感心されています。こうした日本人の姿は「道徳」の「道」がしっかり守られているということになりますが、それでは「道徳」のもう一方の「徳」についてはどうでしょうか？

ネット上での酷い誹謗中傷や後を絶たないバイトテロ、国民の代表であるはずの政治家が平気でウソをつくこと等々を見ると、私たち日本人は世界有数の「道」は実践できているものの、どうも「徳」の方が十分ではないのではないかと感じてしまいます。これまで私たち日本人は、「道」の方に重点を置いてきたのかもしれませんが、これからは自分で意識して「徳」を学んでいく姿勢が大事ではないでしょうか。自分の在り方、生き方を考えることは、自分自身の「美学」を持つことにもつながり、「優しい人」に一步近づけることとなります。人に優しくすることで自分の気持ちまでも良くなり、それによって脳内にセロトニンなどの神経伝達物質が分泌されて、心身にいい影響が生まれることは科学的にも証明されています。

わが国は「失われた30年」と言われるように、社会全体に閉塞感があり、ちょっとしたことでも匿名で他人を攻撃するなど、世の中全体から寛容さが失われ、自分のことばかりを優先し、周囲の人への心配りや共感といった精神的なゆとりを見失っているのではないかと感じられてなりません。そんな時代だからこそ、「『優しさ』とは何か？」を考えることで、その意義を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

社会的地位や経済的な豊かさが関係ない状態になった時、その人の人間的な魅力、言い換えればその人の「真の姿」が問われることになると言われます。「人間は生まれた瞬間は、本人が泣いて、周囲の人が笑っているが、幸せな人の最後は、本人が笑って、周囲の人が泣いている。」という昔からの言い伝えがあるそうです。「幸せな人」とは、「人に優しくしてきた人」と言えるのかもしれませんが、人は誰でも心や気持ちが満たされていないと、人に優しくすることはできないものです。そういう意味では、差別やいじめ、悪意あるからかいや弄りをする人は、自分では気づいていなくても、心や気持ちが満たされていない人だと言えます。本人たちは、一見優位に立っているように思っているのかもしれませんが、差別やいじめ、悪意あるからかいや弄りをする人たちの方にこそ、実は大きな問題があることは明らかです。自分が満たされていないと感じる時に、他人を攻撃して憂さ晴らしをするの

ではなく、意識的に人に優しく接するように心がけることが大切です。日ごろの言動を客観的に見つめ直すことが、自分の心を満たすことにつながるはずです。

人に優しくすることは、自分のためだけではありません。それは、また相手のためでもあるはずで
す。「人に優しく、自分にも優しく」を心がければ、自分の気持ちが満たされ、もっと人に優しくする
ことができます。日々の生活の中で、一人ひとりが周囲の人たちと「優しさ」のキャッチボールをし
ていけば、毎日を前向きな気持ちで心地よくすごすことができ、その繰り返しで、自分の人生を楽し
いもの、豊かなものにしてくれるのではないかと思います。

西郷隆盛は、「功ある者には禄を与えよ、徳ある者には地位を与えよ」という言葉を残しています。
業績を上げている人なら、お金で報いればいい。人格が優れていて、チームメンバー一人ひとりのス
キルや経験を最大限に生かしたチームをつくれる人なら、昇進させて部下を持たせよ、という意味な
のだそうです。

京セラという会社を起業し、日本航空の再建にも手腕を発揮した卓越した経営者である ^{いなもりかずお} 稲盛和夫
さんは、「人が働くことの大きな理由の一つは『生活の糧を得る』ことだけれど、それだけではなく、
『人間性を高めるために一生懸命働くのだ』」という言葉を残しています。経営者やリーダー自身が正
しい生き方を学び、人間性を高める努力を他の誰よりもしなければならない、と稲盛さんは言ってい
るのではないのでしょうか。この言葉の意味が理解できる人ならば、昇進したからといって部下に対し
て権力を振りかざしたり威張ったりせずに、自己の人間性を高めるために働くことができるはずで
す。「H3」のプロジェクトマネージャーである岡田匡史プロジェクトマネージャーは、こんなリーダ
ーだったからこそ、「H3」初号機の失敗を仲間と共に乗り越え、この大プロジェクトを成功に導くこ
とができたのだと思います。

「リーダー」に求められる資質とは何なのか？ どんな人が「真のリーダー」と言えるのか？ みな
さんも考えてみてください。そして、香住のみなさんには、みなさんが置かれた場所で「真のリーダ
ー」となってほしいと願っています。

校長 深瀬 信也